

————— JCR グリーンボンド評価 by Japan Credit Rating Agency, Ltd. —————

株式会社日本格付研究所（JCR）は、以下のとおりグリーンボンド予備評価の結果を公表します。

## 朝日印刷株式会社 第1回無担保社債に 予備評価 Green 1 を付与

発行体	：	朝日印刷株式会社（証券コード：3951）
評価対象	：	朝日印刷株式会社 第1回無担保社債（社債間限定同順位特約付）
分類	：	無担保社債
発行額	：	35億円
利率	：	未定
発行日	：	2022年2月
償還日	：	2027年2月
償還方法	：	満期一括償還
資金使途	：	京都クリエイティブパーク西棟の建設資金のリファイナンス

### <グリーンボンド予備評価結果>

総合評価	Green 1
グリーン性評価（資金使途）	g1
管理・運営・透明性評価	m1

## 第1章：評価の概要

朝日印刷株式会社は、医薬品・化粧品分野を中心とする大手印刷包材メーカー。1872年に木製活版印刷業を創業、1946年に朝日印刷紙器株式会社を設立した。その後、医療用・一般用医薬品向け印刷包材に進出して営業拠点を全国展開するとともに、化粧品向け印刷包材も手掛けるようになった。包装機械や包装ラインの企画・仕入・販売も手掛けており、印刷包材と包装関連機器を合わせたトータルな提案を行っている。

21/3期のセグメント別売上高構成比は、印刷包材事業 89.5%、包装システム販売事業 9.8%、その他 0.7%、売上総利益構成比はそれぞれ 94.0%、5.2%、0.8%となっている。コア事業である印刷包材事業では、多数の大手医薬品メーカー、大手化粧品メーカーとの長年にわたる取引により安定した顧客基盤が構築されている。印刷包材市場では医薬品向け、化粧品向けともに国内トップシェアを有している。

朝日印刷は、美と健康の包装に関する事業を環境と調和させ、未来に向けて継続することで社会的使命を果たし、顧客と社会に貢献していくことを目指している。そのため、CSR 活動に対する基本的な考え方を定め、「お客様満足の上昇」「従業員満足の上昇」「公正で透明性の高い経営」「次世代へ受継ぐモノ作り」「社会との調和」の5つのテーマに分けて活動を推進している。

今般評価対象となる債券は、朝日印刷が発行する第1回無担保社債（本社債）である。本社債の資金使途の対象となるプロジェクトは、京都クリエイティブパーク西棟の建設資金のリファイナンスである。当該施設は太陽光パネルを設置するなど環境に配慮した製造拠点であり、また新製品・新技術の研究開発を担うパイロットプラントとしての機能を有している。中期経営計画やCSR方針で示されている環境問題への解決につながることで、本社債の資金使途となるグリーンプロジェクトに対する管理運営体制が確立されておりかつ透明性が高いことを評価している。

この結果、本社債について、JCR グリーンファイナンス評価手法に基づき、「グリーン性評価（資金使途）」の予備評価を“g1”、「管理・運営・透明性評価」の予備評価を“m1”とした。これより「JCR グリーンボンド予備評価」を“Green 1”とした。

本社債は、「グリーンボンド原則<sup>1</sup>」および「グリーンボンドガイドライン<sup>2</sup>」において求められる項目について基準を満たしていると考えられる。

---

<sup>1</sup> ICMA (International Capital Market Association) グリーンボンド原則 2021 年版  
<https://www.icmagroup.org/green-social-and-sustainability-bonds/green-bond-principles-gbp/>

<sup>2</sup> 環境省 グリーンボンドガイドライン 2020 年版  
<https://www.env.go.jp/press/files/jp/113511.pdf>

## 第2章:各評価項目における対象事業の現状とJCRの評価

### 評価フェーズ1:グリーン性評価

JCRは評価対象について、以下に詳述する現状およびそれに対するJCRの評価を踏まえ、本社債の資金使途の100%がグリーンプロジェクトであると評価し、評価フェーズ1:グリーン性評価は、最上位である『g1』とした。

#### (1) 評価の視点

本項では、最初に、調達資金が明確な環境改善効果をもたらすグリーンプロジェクトに充当されているかを確認する。次に、資金使途において環境へのネガティブな影響が想定される場合に、その影響について社内の専門部署または外部の第三者機関によって十分に検討され、必要な回避策・緩和策が取られているかについて確認する。最後に、持続可能な開発目標(SDGs)との整合性を確認する。

#### (2) 評価対象の現状とJCRの評価

##### a.プロジェクトの環境改善効果について

朝日印刷は、グリーンボンド・フレームワークにおいて資金使途を以下の通り定めている。JCRは、グリーンボンド・フレームワークに「Green 1(F)」を付与している。

グリーンボンドで調達された資金は、以下の適格クライテリアを満たすプロジェクトの新規ファイナンスまたはリファイナンスに充当する予定です。なお、資金使途がリファイナンスの場合、グリーンボンドの発行から遡って36ヶ月以内に実施した適格プロジェクトへの支出に限る。

- ・ 以下の第三者認証機関の認証/再認証のいずれかを取得済みもしくは取得予定の建物の建設・取得であること
  - ① CASBEE 評価認証: B+ランク、Aランク、もしくはSランク
  - ② DBJ Green Building 認証: 3つ星、4つ星、もしくは5つ星
  - ③ BELS 評価: 3つ星、4つ星、もしくは5つ星

本社債によって調達された資金は、朝日印刷京都クリエイティブパーク西棟の建設資金のリファイナンスに全額充当される予定である。

#### 資金使途の概要

物件名称	朝日印刷京都クリエイティブパーク西棟
所在地	京都府木津川市州見台6丁目3番地
主要用途	工場・事務所等
建物面積	6,687.95 m <sup>2</sup>
延床面積	12,282.75 m <sup>2</sup>
階数	地上2階
竣工	2020年4月
環境認証	CASBEE 建築(新築) B+
特徴	太陽光パネルの設置

朝日印刷は、京都府木津川市のけいはんな学研都市(正式名称:関西文化学術研究都市)に2015年3月に京都クリエイティブパークを建設し、2020年4月に、同パーク内に今般の資金使途対象で

ある西棟を建設した。当該製造棟では、店頭用医薬品パッケージ並びに化粧品パッケージを主体として製造し、市場からのニーズに迅速に対応することが可能となった他、朝日印刷の新たなモノづくりを創造する研究開発拠点としての役割も担っている。当該施設は、「新たなモノづくりの創生開発」「革新的な工園」「環境との調和」をコンセプトとしており、これらは環境保全を意識した「朝日サーキュラー」における持続可能な原料の使用、製造や廃棄時のリサイクルの推進、製造時や物流時の省エネルギーの推進等に資するものである。また、CASBEE 建築（新築）「B+」を取得しており、グリーン性を確認できるプロジェクトとなっている。

以上より、JCR は本社債の資金使途の対象となるプロジェクトについて、環境改善効果を有するものであると評価している。

また、本社債の資金使途は、「グリーンボンド原則」における「地域、国または国際的に認知された標準や認証を受けたグリーンビルディング」および「エネルギー効率」および「グリーンボンドガイドライン」に例示されている資金使途のうち、「グリーンビルディングに関する事業<sup>3</sup>」および「省エネルギーに関する事業」に該当する。

## b. 環境に対する負の影響について

朝日印刷は、国もしくは事業実施の所在地の地方自治体にて求められる環境関連法令等の遵守と必要に応じた環境への影響調査、事業実施にあたり地域住民への十分な説明、環境基本方針に沿った資材調達や環境汚染の防止など、環境・社会的リスク低減のための対応を実施している。また、各部門責任者、グループ企業社長などを委員とする「リスク管理委員会」において、業務執行に係るリスクをトータルに認識・評価し、適切なリスク対応を行っている。朝日印刷は、京都クリエイティブパーク西棟の建設にあたって、環境に与えるネガティブな影響に対して適切に配慮していることを確認している。

## c. SDGs との整合性について

JCR は、ICMA の SDGs マッピングを参考にしつつ、本フレームワークで定める資金使途が以下の SDGs の目標およびターゲットに貢献すると評価した。



### 目標 7：エネルギーをみんなに そしてクリーンに

**ターゲット 7.3** 2030 年までに、世界全体のエネルギー効率の改善率を倍増させる。



### 目標 9：産業と技術革新の基礎をつくろう

**ターゲット 9.4** 2030 年までに、資源利用効率の向上とクリーン技術および環境に配慮した技術・産業プロセスの導入拡大を通じたインフラ改良や産業改善により、持続可能性を向上させる。すべての国々は各国の能力に応じた取り組みを行う。



### 目標 11：住み続けられる街づくりを

**ターゲット 11.3** 2030 年までに、包摂的かつ持続可能な都市化を促進し、すべての国々の参加型、包摂的かつ持続可能な人間居住計画・管理の能力を強化する。

**ターゲット 11.6** 2030 年までに、大気質および一般並びにその他の廃棄物の管理に特別な注意を払うことによるものを含め、都市の一人当たりの環境上の悪影響を軽減する。

<sup>3</sup> 「省エネルギー性能だけではなく、水使用量、廃棄物管理等の考慮事項に幅広く対応しているグリーンビルディングについて、国内基準に適合又は CASBEE 認証、LEED 認証等の環境認証制度において高い性能を示す環境認証を取得してその新築又は改修を行う事業」とされている。

## 評価フェーズ2：管理・運営・透明性評価

JCRは評価対象について、以下に詳述する現状およびそれに対するJCRの評価を踏まえ、管理・運営体制がしっかり整備され、透明性も非常に高く、計画どおりの事業の実施、調達資金の充量が十分に期待できると評価し、評価フェーズ2：管理・運営・透明性評価は、最上位である『m1』とした。

### 1. 資金使途の選定基準とそのプロセスにかかる妥当性および透明性

#### (1) 評価の視点

本項では、グリーンボンドを通じて実現しようとする目標、グリーンプロジェクトの選定基準とそのプロセスの妥当性および一連のプロセスが適切に投資家等に開示されているか否かについて確認する。

#### (2) 評価対象の現状とJCRの評価

##### a. 目標

朝日印刷は、「環境基本方針」において、美しい地球を守ることの重要性を認識し、環境保全を意識したモノ作りに継続的に取り組んでいる。「地球環境の保全」「生物多様性」「気候変動の緩和」「持続可能な資源の利用」に配慮した企業活動を推進し、社会的責任を果たしていくとしている。また、「CSR方針」では、CSR活動に対する基本的な考え方を定め、「お客様満足の上昇」「従業員満足の上昇」「公正で透明性の高い経営」「次世代へ受継ぐモノ作り」「社会との調和」の5つのテーマに分けて活動を推進している。

本社債の資金使途となる京都クリエイティブパークは、「新たなモノづくりの創生開発」「革新的な工園」「環境との調和」をコンセプトとしており、これらはCSR方針における「お客様満足の上昇」「従業員満足の上昇」「次世代へ受継ぐモノ作り」に資するものである。これよりJCRは、朝日印刷による本社債の発行は、目標と整合的であると評価している。

##### b. 選定基準

朝日印刷のグリーンファイナンスにおける資金使途の選定基準は、フェーズ1に記載の通りであり、JCRはこの選定基準について、環境改善効果が期待できると評価している。

##### c. プロセス

調達資金の使途となるプロジェクトは、財務部により経営理念、中期経営計画および適格クライテリアへの適合が検討され、評価および選定が行われている。財務部の担当者は、対象となるプロジェクトを資金使途としたグリーンボンドによる調達に関して、関係部署と協議の上で、専務取締役管理本部長が取締役に上程し、取締役会で最終決定を行っている。経営陣が選定のプロセスに関与しており、プロセスが明確であるとJCRでは評価している。

なお、本社債の発行にかかる目標、選定基準、プロセスは、朝日印刷のウェブサイト上で開示される予定であり、JCRは開示体制について適切であると評価している。

## 2. 資金管理の妥当性および透明性

### (1) 評価の視点

調達資金の管理方法は、発行体によって多種多様であることが通常想定される。本稿では、グリーンボンドの発行により調達された資金が確実にグリーンプロジェクトに充当されること、また、その充当状況が容易に追跡管理できるような仕組みと内部体制が整備されているか否かを確認する。

また、グリーンボンドにより調達した資金が、早期にグリーンプロジェクトに充当される予定となっているか、また、未充当資金の管理・運用方法の評価についても重視している。

### (2) 評価対象の現状と JCR の評価

本社債によって調達される資金は、京都クリエイティブパーク西棟の建設資金のリファイナンスとして、払込から半年以内に全額リファイナンスに充当される予定である。

資金管理は、朝日印刷の財務部が調達時・返済時に振替伝票を紙出力して、財務部長の承認を得て、その後の追跡管理は経理部により四半期ごとに内部会計システムを用いて行われる予定である。また、資金調達に関する事項を含む会計全般について内部監査および外部監査の対象であり、適切に統制が図られる仕組みとなっている。

本社債における払込期日の直後にリファイナンスが行われるため、本社債の発行当初において未充当資金は発生しない。原則として未充当資金は発生しない予定であるが、未充当資金が発生した場合は現金または現金同等物で管理することを予定している。

以上より、JCR では本社債に係る資金管理体制の妥当性および透明性は高いものと評価した。

### 3. レポーティング体制

#### (1) 評価の視点

本項では、グリーンボンド発行前後の投資家等への開示体制が詳細かつ実効性のある形で計画されているか否かを、グリーンボンド発行時点において評価する。

#### (2) 評価対象の現状と JCR の評価

##### a. 資金の充当状況にかかるレポーティング

本社債による調達資金の用途および充当状況は、朝日印刷のウェブサイト上で公表される。また、資金使用の対象である物件の売却等の重要な事象が生じた場合には、その旨もウェブサイトにて開示されることが想定されている。

##### b. 環境改善効果にかかるレポーティング

朝日印刷は、環境改善効果のレポーティングとして、資金使用となる建物の環境認証にかかる情報や、保有物件全体を対象としたエネルギー使用量等の定量的なデータについて、ウェブサイト上で公表する予定である。

- 本件対象プロジェクトで取得した環境評価認証の種類とランク
- 本件対象プロジェクトによる年間のエネルギー使用量
- 本件対象プロジェクトによる年間の CO<sub>2</sub> 排出量

JCR は、朝日印刷のレポーティング体制について、資金の充当状況および環境改善効果の両方が投資家等に対して適切に開示される計画であると評価している。



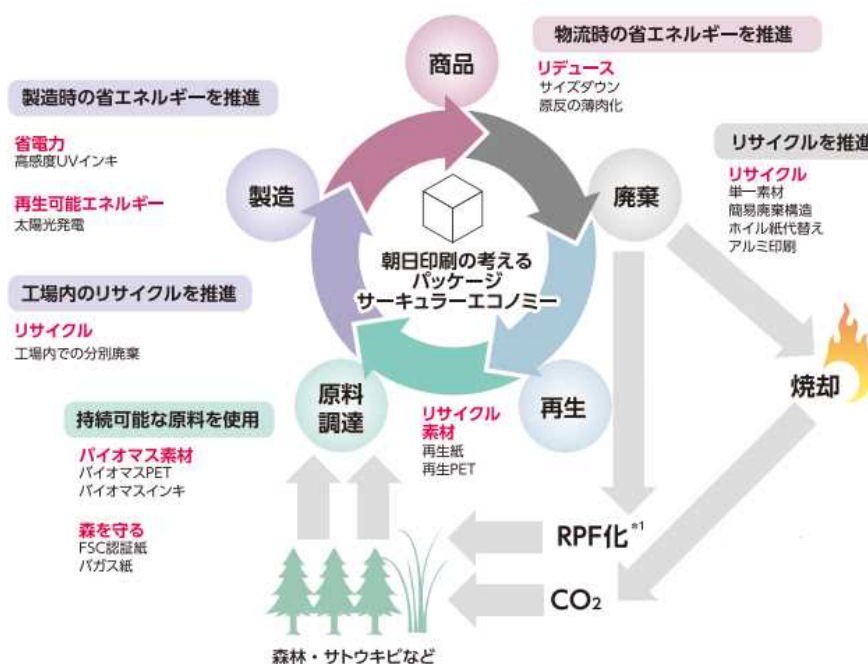
## 4. 組織の環境への取り組み

### (1) 評価の視点

本項では、発行体の経営陣が環境問題について、経営の優先度の高い重要課題と位置づけているか、環境分野を専門的に扱う部署の設置または外部機関との連携によって、グリーンファイナンス実行方針・プロセス、グリーンプロジェクトの選定基準等が明確に位置づけられているか等を評価する。

### (2) 評価対象の現状と JCR の評価

朝日印刷は安心・安全・環境をテーマに CSR 活動を推進している。その一環として、原料調達・製造・商品・廃棄・再生の循環型経済である「朝日サーキュラー」に取り組んでいる。これは、包装というサーキュラーエコノミーの一部を担っているという認識のもと、持続可能な原料の使用、製造や廃棄時のリサイクルの推進、製造時や物流時の省エネルギーの推進などを行っており、環境保全を意識したモノ作りを継続的な取り組みと評価している。また、CSR テーマとして ESG に関する短期的な目標を設定しており、環境面では環境負荷低減、環境法規制の順守、森林認証紙の使用比率の向上、CSR 教育の実施、朝日グループ企業の社会的価値向上（グループ会社での CSR 活動の推進サポート）といった課題を挙げ、CSR レポートにおいて目標達成の状況を確認している。今後は、環境に対する中長期的な方針や目標の設定がなされることを期待している。



(出典：朝日印刷 CSR レポート)

合議体としては 2020 年に「CSR 委員会」を設置している。同委員会は、取締役を責任者に置くことで経営層からの意志決定を迅速に反映できるようにし、さらに各本部の人員をメンバーに加えることで、会社全体に影響を及ぼすことを意図して組織している。また、各部門責任者やグループ企業社長などを委員とする「リスク管理委員会」を組織しており、環境面におけるリスク・機会を把握し、取り組みまで落とし込む仕組みや適切に法令が順守されていることを評価・確認する仕組みを構築している。

CSR 活動における外部機関の活用として、CDP、Sedex、EcoVadis の 3 つの国際的な CSR 評価サービスに参加している。これらは朝日印刷の主要顧客である大手医薬品メーカー、大手化粧品メーカーの CSR 活動への意識向上とともに求められる情報開示に対応するために活用しており、サプライチェーンの中で朝日印刷の CSR 活動の向上につながっている。

以上より、朝日印刷は経営陣が CSR 活動の中で環境問題に対する対応を図っていると JCR は評価している。



## ■評価結果

本社債について JCR グリーンファイナンス評価手法に基づき、「グリーン性評価（資金使途）」の予備評価を“g1”、「管理・運営・透明性評価」の予備評価を“m1”とした。これより、「JCRグリーンボンド予備評価」を“Green 1”とした。

本社債は、「グリーンボンド原則」および「グリーンボンドガイドライン」において求められる項目について、基準を満たしていると考えられる。

【JCR グリーンボンド評価マトリックス】

		管理・運営・透明性評価				
		m1	m2	m3	m4	m5
グリーン性評価	g1	Green 1	Green 2	Green 3	Green 4	Green 5
	g2	Green 2	Green 2	Green 3	Green 4	Green 5
	g3	Green 3	Green 3	Green 4	Green 5	評価対象外
	g4	Green 4	Green 4	Green 5	評価対象外	評価対象外
	g5	Green 5	Green 5	評価対象外	評価対象外	評価対象外

(担当) 菊池 理恵子・川越 広志

## 本評価に関する重要な説明

### 1. JCR グリーンファイナンス評価の前提・意義・限界

日本格付研究所（JCR）が付与し提供する JCR グリーンファイナンス評価は、評価対象であるグリーンファイナンスの発行により調達される資金が JCR の定義するグリーンプロジェクトに充当される程度ならびに当該グリーンファイナンスの資金使途等にかかる管理、運営および透明性確保の取り組みの程度に関する、JCR の現時点での総合的な意見の表明であり、当該グリーンファイナンスで調達される資金の充当ならびに資金使途等にかかる管理、運営および透明性確保の取り組みの程度を完全に表示しているものではありません。

JCR グリーンファイナンス評価は、グリーンファイナンスの発行計画時点または発行時点における資金の充当等の計画又は状況を評価するものであり、将来における資金の充当等の状況を保証するものではありません。また、JCR グリーンファイナンス評価は、グリーンファイナンスが環境に及ぼす効果を証明するものではなく、環境に及ぼす効果について責任を負うものではありません。グリーンファイナンスにより調達される資金が環境に及ぼす効果について、JCR は発行体または発行体の依頼する第三者によって定量的・定性的に測定されていることを確認しますが、原則としてこれを直接測定することはありません。

### 2. 本評価を実施するうえで使用した手法

本評価を実施するうえで使用した手法は、JCR のホームページ (<https://www.jcr.co.jp/>) の「サステナブルファイナンス・ESG」に、「JCR グリーンファイナンス評価手法」として掲載しています。

### 3. 信用格付業にかかる行為との関係

JCR グリーンファイナンス評価を付与し提供する行為は、JCR が関連業務として行うものであり、信用格付業にかかる行為とは異なります。

### 4. 信用格付との関係

本件評価は信用格付とは異なり、また、あらかじめ定められた信用格付を提供し、または閲覧に供することを約束するものではありません。

### 5. JCR グリーンファイナンス評価上の第三者性

本評価対象者と JCR の間に、利益相反を生じさせる可能性のある資本関係、人的関係等はありません。

### ■留意事項

本文書に記載された情報は、JCR が、発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものです。ただし、当該情報には、人為的、機械的、またはその他の事由による誤りが存在する可能性があります。したがって、JCR は、明示的であると黙示的であるとを問わず、当該情報の正確性、結果、的確性、適時性、完全性、市場性、特定の目的への適合性について、一切表明保証するものではなく、また、JCR は、当該情報の誤り、遺漏、または当該情報を使用した結果について、一切責任を負いません。JCR は、いかなる状況においても、当該情報のあらゆる使用から生じうる、機会損失、金銭的損失を含むあらゆる種類の、特別損害、間接損害、付随的損害、派生的損害について、契約責任、不法行為責任、無過失責任その他責任原因のいかなるものを問わず、また、当該損害が予見可能であると予見不可能であるとを問わず、一切責任を負いません。JCR グリーンファイナンス評価は、評価の対象であるグリーンファイナンスにかかる各種のリスク（信用リスク、市場流動性リスク、価格変動リスク等）について、何ら意見を表明するものではありません。また、JCR グリーンファイナンス評価は JCR の現時点での総合的な意見の表明であって、事実の表明ではなく、リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の購入、売却、保有の意思決定に関して何らの推奨をするものでもありません。JCR グリーンファイナンス評価は、情報の変更、情報の不足その他の事由により変更、中断、または撤回されることがあります。JCR グリーンファイナンス評価のデータを含め、本文書にかかる一切の権利は、JCR が保有しています。JCR グリーンファイナンス評価のデータを含め、本文書の一部または全部を問わず、JCR に無断で複製、翻案、改変等を行うことは禁じられています。

**JCR グリーンファイナンス評価：**グリーンファイナンスの実行により調達される資金が JCR の定義するグリーンプロジェクトに充当される程度ならびに当該グリーンファイナンスの資金使途等にかかる管理、運営および透明性確保の取り組みの程度を評価したものです。評価は5段階で、上位のものから順に、Green1、Green2、Green3、Green4、Green5 の評価記号を用いて表示されます。

### ■サステナブルファイナンスの外部評価者としての登録状況等

- ・ 環境省 グリーンボンド外部レビュー者登録
- ・ ICMA (国際資本市場協会) に外部評価者としてオブザーバー登録
- ・ UNEP FI ポジティブインパクト金融原則 作業部会メンバー
- ・ Climate Bonds Initiative Approved Verifier (気候債イニシアティブ認定検証機関)

### ■その他、信用格付業者としての登録状況等

- ・ 信用格付業者 金融庁長官（格付）第1号
- ・ EU Certified Credit Rating Agency
- ・ NRSRO：JCR は、米国証券取引委員会の定める NRSRO (Nationally Recognized Statistical Rating Organization) の5つの信用格付クラスのうち、以下の4クラスに登録しています。(1)金融機関、ブローカー・ディーラー、(2)保険会社、(3)一般事業法人、(4)政府・地方自治体。米国証券取引委員会規則17g-7(a)項に基づく開示の対象となる場合、当該開示は JCR のホームページ (<http://www.jcr.co.jp/en/>) に掲載されるニュースリリースに添付しています。

### ■本件に関するお問い合わせ先

情報サービス部 TEL：03-3544-7013 FAX：03-3544-7026

**株式会社 日本格付研究所**

Japan Credit Rating Agency, Ltd.  
信用格付業者 金融庁長官（格付）第1号

〒104-0061 東京都中央区銀座 5-15-8 時事通信ビル